

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 rows: 事業所番号 (0173100355), 法人名 ((株)栄友), 事業所名 (グループホーム ゆう Aユニット), 所在地 (上川郡東川町北町4丁目9-26), 自己評価作成日 (平成30年11月8日), 評価結果市町村受理日 (平成31年1月15日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、大雪山が遠望でき、公園に隣接した立地で広い敷地に畑や遊歩道を設けている。利用者様の自立を支援をしたいという施設長の想いから、リハビリや作業療法、レクレーションに力を入れている。また、居室にトイレを設置し、誘導によるトイレ介助を行い、自立を促している。各居室に窓が設置され窓の外には実のなる木を植え、その実を秋には収穫することを利用者様も楽しみにしている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2018_02_2_kihon=true&JigyosyoCd=0173100355-00&PrefCd=01&VersionCd=022

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 rows: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (平成30年12月12日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームゆうは、バス停から5～6分程の住宅街に立地している平屋建て2ユニットである。広大な敷地内には2カ所の高齢者事業所が隣接され、災害時協力体制や夏祭り、音楽療法、中庭にある遊歩道での散歩等で、それぞれの職員と利用者は馴染みの関係にある。利用者は、中庭にある花木や野菜畑で四季の移り変わりを身近に感じることができ、生活意欲に繋げている。恒例になっている夏祭りには、家族はもとより大勢の地域住民の参加が得られるなど、常に地域資源としての役割を認識した運営が行われている。高齢化や介護度の高さもあり、利用者や遠出したいなど職員が思い描くような外出支援ができず、模索している状況にある。室内でカラオケや塗り絵、脳トレーニング、1日2回の体操、季節に因んだ飾り付けなどを企画し、利用者の持てる力の引き出しに努めている事業所である。

Table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 detailing service outcomes and staff performance.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎月のミーティングや常日頃から理念に触れ、毎日の生活の中で職員と確認し合いながら話し合っている。申し送りノートを活用し、小さな気付きを全職員が共有し、細部に渡って理念に沿った実践ができるように努めている。	利用者1人ひとりの大切さを文言にした理念を職員は共有し、ケアサービスで実践に努めている。事業所内に掲示し、定例会議で理念の振り返りを行い、職員の意識統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設行事には、地域の方々にも参加して頂き、地域の行事にも参加している。また、施設で食する米は近所の農家から分けて頂いている。時々、色々な方から野菜等頂いている。	敷地内の一部を開放し、地元の方が野菜作りに通っている。また、ボランティアによる梨やサクランボなど果樹の剪定、中庭で小学生による鼓笛隊や踊りの披露、「ゆう夏祭り」には大勢の地域の方の参加交流があり、地域密着を十分に理解した運営に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学に来られた方に対して、対応方法等説明を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は町議員、民生委員、ご家族、地域住民、職員を構成員として二カ月に一度開催されています。会議では、事業所の運営状況や事故報告、行事事内等がなされ、活発な意見交換を通して運営に生かしています。話合った内容は記録し、各利用者様のご家族に送付して周知して頂けるように努めています。	会議は、外部講師による講演会や事業所の夏祭りなど行事に合わせて行われることもあり、地域や家族の出席率は高い。事業所の実情を報告し、介護保険改正の説明や終末期の取り組み等を周知し、事業所の理解に繋げている。	出席者の立場の明確化や事故報告、ヒヤリハットを含む現況報告と意見交換の記述など、議事録の整備と出席者からのさらなる意見や提案の引き出しの工夫に期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町職員とは運営推進会議や町役場に出かけ、ホームの相談やサービスの質の向上についても話合っている。	事故報告書等の提出物や問い合わせは直接担当窓口に出向き、運営の充実に向けた意見や提案を得ている。地域包括センター主催の行事への参加や、介護相談に訪れた住民の橋渡しなども行われている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不穏者に対する見守りや対応の仕方についての話し合いを徹底して、玄関施錠を撤廃し、身体拘束防止に取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会は、3回開催している。指針の作成や研修会は、準備段階にある。スピーチロックなど不適切な対応には、ミーティング等で注意喚起を促し、適切なケアに繋げている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会で定期的な事例をあげ問題解決に取り組んでおり、職員に伝達し再確認を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を受け、学んだことを活かせるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、重要事項の説明やサービスの内容を説明し、理解と同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設け、また、重要事項説明書に苦情窓口を記載しています。また、ご家族の来所時や運営推進委員会でご家族の方からの意見や要望をお聞きし、利用者様からは日常の関わりの中で、言葉や言動を把握して、運営に反映させています。	利用者の様子は、毎月の「ゆう新聞」や家族来訪時等で周知している。関わりから得た利用者や家族の要望を職員間で検討し、報告を受けた法人役員が家族に改善策を説明している。要望に応え、レクで立ち上がりの訓練を行っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃のコミュニケーションや毎月のスタッフ会議、定例会議で職員の意見や提案を聞き、サービスの向上につなげている。	職員は業務の様々な場面で、運営上の意見や提案を述べている。レク係などの役割はあるが、全職員の力を結集し、ケアサービスに取り組んでいる。職員の提案で、リハビリ体操を取り入れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度の導入により、各職員の得意とする分野や成果等を把握し、意欲を持って働いてもらえるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	経験や知識、技術レベルに合せた外部研修を実施し、サービスの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や包括連絡会議に参加し、情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの開始時、利用者様も緊張や不安が強く、職員との信頼関係も築けていけない為、施設内で迷うことのないよう常に目を配り声かけを多くし、安心できる職場である事を確認して頂く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の申込があると出向いて面接し、ご家族に対しても何か困っているかを聞き信頼関係を深め、必要な時期に入所できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の希望を伺い、必要とされている事に対し、できる限りの支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様、職員が自ら助け合う家族的雰囲気大切にしている。入居者様は豊かな人生経験、知識を多く持ち、職員が教えられる事が多い。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節行事に参加して頂き、ご本人と一緒に過ごして頂きながら、悩みや要望を聞いている。変わった事があれば電話連絡をして、対応等を話し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃のコミュニケーションの中で、馴染みの場所の把握に努め、ドライブに訪れたりしている。以前住んでおられた家の近所の面会もある。	利用者から「馴染みの人に会いたい」「懐かしい場所に出かけたい」などの要望は殆ど聞かれないが、外出行事で観光地を訪れている。要望には、出来る限り応える態勢を整えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が楽しく暮らしていけるように、職員が間に入りコミュニケーションを取っている。また、孤立しないように、それぞれの利用者様の得意なことや特徴を把握することに努め、同じ趣味などを持った利用者様同士の関係作り等にも努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後でも相談や依頼が「あれば適切に対応する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中での希望、意見はケアの中で取り組み、本人本位で対応している。	利用者とは、入浴時など日常の関わりから暮らしへの意向を傾聴したり、言動から推し量っている。ケアへの要望を受け止め、ケアプランに反映するなど、安心や満足に繋がる支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしをご本人やご家族より聞き、ホームの暮らしに生かしている。入居されるまで、サービス利用の経緯や有無も聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝、昼、夕の申し送り、一人一人のケース、記録、バイタル、排泄等、心身の状態を確認し、一日の変化等を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフ会議や定例会議で職員の意見やご家族、ご本人の要望を取り入れ、介護計画作成者が介護計画を作成すると共にモニタリングを行い、介護計画の見直しを行っています。	ケアプランは、計画作成担当者が中心になって策定している。利用者や家族の生活への意向や医療従事者の所見を基に、会議で評価や課題分析を行い、適切なプランになるよう協議している。	現在、ケアプランと介護記録の連動性によりプランの実践の確認や、更新時に生かせる書式の工夫を検討しているので、その実行に期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様一人一人の日々の状態や状況を観て、職員間で話し合い、常に利用者様の立場に立って考え行動している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人のニーズも違えば、支援内容もプラン内容も違うため、個々の利用者様に合った柔軟な対応を心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会に参加して頂き、諸問題を検討し交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診については、利用者様、ご家族の方の意向を尊重した上で、かかりつけ医への受診を支援している。また、かかりつけ医との連携を図り、緊急時でも適切な医療を受けられる。	利用者の大部分は、協力医による月2回の訪問や緊急時、重篤時に診療を受けている。他科受診は、家族と協力し支援している。看護師でもある施設長が、定期や急変時に訪問があり早期の受診に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	必要時には、利用者様のかかりつけ医に相談を行っている。また、利用者様が体調不良の場合は、職場看護師が適切な処置や病院受診を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に主治医に相談し、指示を頂いている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の方には、当事業所の「看取り」についての姿勢は伝えている。	入居時に、重度化や終末期の対応を説明している。職員は、ガイドラインや講演会、内部研修会等で知識や技術の習得に努め、利用者や家族の安心に繋げている。関係者と方針を共有し、尊厳ある看取り支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を全職員が受講しており、発生時には対応マニュアルを基に動くことを確認している。また、AEDも完備している。			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は年2回実施し、昼間だけではなく、夜間想定での訓練も行われているが、災害時の地域協力体制は調整中せず。救命救急講習は全員受けています。	年2回夜間想定での避難訓練を計画し、1回目が終わっている。地域の方には訓練の参加を要請している。停電に備え自家発電機など災害時備蓄品も随時用意している。水害時は、系列の2階建て事業所を避難所としている。	新たに自然災害を含む災害計画書を策定しているので、その実践と、さらなる地域との協力体制の構築に期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	周りに他利用者様が居る時は、声かけの仕方に注意している。居室には、声かけを行ってから入るなどプライバシーを確保している。	居室のトイレは外部から見えないように設置し、入浴時は、同性介助に応じるなど、羞恥心に配慮している。言葉遣いなど適切な接遇になるよう職員間でも注意合っている。個別の記録の取り扱いも的確に行われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の利用者様に応じ、自己決定できるような会話を心がけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ここの生活をは把握し、個々の時間を大切にしています。季節に応じて野外へ花見、ドライブへ行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は出来る方はご自分で選ばれ、不具合な場合は援助している。美容、理容は二カ月に一回毎訪問理容を利用し、髪型はご本人の意向を尊重している。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや後片付け等、ご本人の意見を尊重し、職員と共に行うことによって、楽しい時間になるように支援している。	食材と献立は業者から届くが、献立をアレンジしたり、差し入れや菜園で採れた野菜を活用している。デザートとして利用者と一緒に収穫した果物を味わうなど、食事時間が楽しみになるよう努めている。誕生日は、それぞれ手作りケーキでお祝いをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様の既往歴や健康状態、摂取量を記録し、バランスの良い食事を提供している。水分においても、夏季はこまめな水分摂取を心がけている。また、食事が思うように摂れない利用者様に対し、エンシュア等を提供している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけが必要な人、介助が必要な方を把握し、毎食後、おやつ後に実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、定時誘導を心がけている。夜間と日中ではオムツやパット等の使用量を減らす等の調整もしている。	居室にトイレを設置していることは、スムーズな排泄を可能にしている。一人ひとりの排泄状態を見極めたトイレ誘導や見守りは、失敗の軽減はもとより、布下着着用になるなど改善も見られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事に乳製品や繊維質の食物をよ取り入れたり、時間を見つけて軽い運動や体操を行ったりしている。それでも便秘が解消されない場合は、腹部マッサージや下剤等薬物療法でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の希望に合わせて、ゆったりと入浴して頂いている。時々入りたがらない方もいるので、ご本人の気持ちを聞き、入りたい日に変更している。	入浴は、午前と午後週2～3回を基本として支援している。脱衣所はポータブルストーブで暖め、利用者の状況によりシャワー浴もあるが、2人介助により湯船に浸かり、言葉数が多くなったり歌が聞かれるなど、リラックスできる環境作りに努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩、日向ぼっこ、レク等に参加してもらうが、夜間、精神症状が強く眠れない時は、専門医に相談しながら薬を服用されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋は、職員が見られる所に保管、医師の指示通り服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常、掃除、洗濯物たたみ、食事作り等全てにおいて、出来る作業を分担して行うことで、利用者様自身の役割が確認できている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日光浴や散歩の他に花見ドライブ等の機会を増やしている。利用者様の気分転換が図れ、季節感を肌で感じることができるため、積極的に支援している。	中庭にある遊歩道や周辺の散歩、買い物等で日常的に外気に触れている。マイクロバスで花見や紅葉を楽しみ、観光地の公園を訪れ五感刺激を図るなど、暮らしに変化を付けている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望で年賀状を出したり、電話の要望があれば支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度や湿度等の空調管理の配慮は怠らないようにしている。また、季節感が感じられるよう室内を装飾したり、花を飾る等の工夫をしている。また職員は耳障りな音を出さないように気を配っている。	共用空間は全てがゆったりとした造りになっており、開放感に溢れている。温湿度や音量、採光も適切に管理され、居心地の良い環境になっている。居間には、利用者で作り上げたクリスマスの飾り付けが華やかさを演出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間では利用者様の安全や安心感を十分に確保するために、物の配置や利用者様の配席に配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅からタンスや布団、生活用品を持って来ている。居室にはお孫さんの結婚式やご家族皆さんで撮った写真等が飾ってある。	居室には、収納スペースやトイレ、洗面台等が設置され生活しやすい住環境にある。馴染みの調度品や家族写真、趣味の物を飾るなど、利用者が安心できる場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の残存機能を見極め、その時に応じて支援を行い、介護し過ぎない様に、配慮しています。		